

愛媛大学

平成26年度土木海洋会だより

— 第20号 —



Mine Engineering
 Civil Engineering
 Ocean Engineering
 Civil & Ocean Engineering
 Civil & Environmental Engineering

目 次

ごあいさつ	(会 長 河野 徹 土木42年卒).....	1
学科だより	(副会長 環境建設工学科 学科長 森脇 亮).....	2
新任教員の挨拶	(教 授 松村 暢彦).....	4
	(教 授 日向 博文).....	5
愛媛大学環境建設系学生のための企業説明会開催 (近畿支部)		
支部だより	(関東支部幹事長 黒坂 佳司 海洋57年卒).....	6
	(近畿支部事務局 清水 義博 土木52年卒).....	9
	(中国支部支部長 河野 徹 土木42年卒).....	12
	(愛媛支部支部長 高橋 正雄 海洋S55年卒	
	副支部長 黒川 重男 土木S55年卒	
	幹 事 長 栗原 弘和 土木H2年卒).....	13
同窓会報告		
	渡邊政広教授退官記念祝賀会.....	18
	第3回森研究室同窓会.....	19
平成26年度総会報告.....		21
会計報告.....		23
事務局だより.....		25

巻 頭 所 感

会長 河野 徹（土木42年卒）



第4回ユネスコ国際成人教育会議（パリ）の宣言（1985.3.29）で、『学習権なくしては、人間的発達はありえない。すべての人々が効果的にそれを行行使するのに必要な条件をつくるように要望する』と謳われている。

それを受けて、各種の団体による生涯教育が実施されているし、専門集団（医師、弁護士、技術者等の団体）により継続教育を積極的に進めている。日本工学界も各種の教育改革を提言してきた。それを受けて、われわれに関連がある学協会でも建設系CPD協議会を設立し、建設関連の有資格者の継続教育（学習、研鑽）を義務化している。今後は試験で合格するだけでは資格を維持することは難しく、継続的に技術研鑽をする事が有資格者の義務となりつつある。それもあって小生も学会、協会、地域教育の集まりなど各種の団体のお世話をさせてもらいながら、地元の文科系大学の特別教養講座にも聴講している。そのお陰で、今迄の会社生活ではお会いする事も少なかった方々とお話できて多くの社会勉強をさせて頂いている。

その中で自分自身が影響を受けている言葉をご紹介します。ある医療関係者は『今日までの努力は、今日までに清算済み、これからの人生はこれからの努力次第』と言われました。即ち過去に一生懸命勉強し優秀な学校を卒業し、優良企業を定年退職した。残りの人生は悠々自適の生活であると思うな。過去は清算済み、今後の人生は貴方の今後の努力次第であると言うことです。

もう一例、地元の優良企業家の話で、『後悔には2種類ある。“あの時しなければ良かった”と“あの時しておけば良かった”』と言う事である。前者はすぐに忘れて消えうせるが、後者はいつまでも残るものだそうである。ふとわが人生を振り返ると、考える事だそうで各種のやり残した事は何時までも心の底に後悔の念が残るものだそうである。

『Boys, be ambitious like this old man』と言う言葉は札幌農学校の副校長のクラーク博士が退任に当たって残した言葉として有名で、その弟子には内村鑑三、新渡戸稲造、廣井勇など後の日本を代表する賢人が多数います。クラーク博士はわずか8ヶ月の在任でしたので、2期生である上記の人は会っていない可能性もある。又彼がそれを言ったのは写真では老けて見えるが50歳の時である。帰任後59歳の人

生を米国で閉じているので、人生の終盤ではあるが今ではold manと言えるかどうかである。

厚生労働省の資料によると、70歳の平均余命は15年弱である。小生も余すところ15年のold manである。前者の言葉も胸に秘めて、この土木海洋会が発展する事に希望をもって応援したいと考える今日この頃です。

学科だより

学科だより

副会長 環境建設工学科 学科長
森脇 亮

はじめまして、今年度より学科長を仰せつかりました森脇と申します。

環境建設工学科におきましては、平成26年4月に着任の松村暢彦教授、日向博文教授をメンバーに迎え入れ、平成26年10月の時点で、教授8名、准教授9名、講師1名、助教6名、兼任教員2名の26名の教員と技術職員5名、事務職員1名、契約職員12名の計44名のスタッフで学科を運営しております。

本学科の最近の動きとして、今年度総会の折にもご紹介させて頂きましたが、以下の四つの内容（国際化教育、学生の就職、大学院カリキュラム、社会基盤エキスパート養成講座）についてご紹介させて頂きたいと思います。

1. 国際化教育

本学科ではH23年より開始したKSA（Kaken Study Abroad）プロジェクトが開始され、今年も2名の学生を派遣・受け入れを行いました。このプロジェクトの特徴としては、単位互換により留年をすることのないように配慮していること（半期留学）、またJASSO（日本学生支援機構）からの助成金を得られ経費の負担を軽減することです。留学先は平成23年から学術交流協定を結んでいる韓国蔚山大学、平成24年からは台湾国立高雄大学、また新たに平成26年から、台湾国立高雄第一科技大学、さらに大学院生を対象とした夏期短期留学として、インドネシアにあるガジャマダ大学、ハサヌディン大学、バンドン工科大学との交流を行っています。これらの交換留学の目的として、本学科では国際感覚の涵養、異文化の交流を通じて学生自身の能力の向上を目指しています。

2. 学生の就職状況

本学科では、工学部全体の就職状況も併せて、今年度は特に極めて就職率の高い状態となっています。その理由として、学科の就職担当教員・職員が、きめ細かく就職のための指導をしていることに加えて、土木海洋会近畿支部の主催のもとに開催された企業説明会&OB／OG交流会（平成26年2月15日大阪キャッスルホテルにて開催）も大きな効果となっています。また、本学科では就職希望の学生の100%が内定を頂いております。この交流会は平成26年12月6日に愛媛大学職員会館にて開催され、また近畿支部でも同様に来年の平成27年2月28日に大阪キャッスルホテルにて業界研究会として開催される予定です。

3. 大学院カリキュラム

1. 国際化教育で紹介させて頂きましたプロジェクトが設置されたことに対応することも考慮し、大学院教育の見直しを行うことが学科内で検討されました。これらの検討項目として、カリキュラムの見直し、外国人留学生にも受講できる英語の対応、PBL（Project-Based Learning、課題解決型学習）の積極的導入、クォーター制の活用 of 3項目です。

大学院のカリキュラムの見直しとして、社会デザインコースの学生にも対応できるような新設科目を図-1のように、レジリエント社会基盤デザイン、サステナブル環境デザイン、サステナブル都市地域マネジメント、コモン科目の四つの科目群に加え、発展・総合科目として、演習、実験、実習の計30単位に修士論文を加えたカリキュラムを平成27年度4月入学生に実施することになりました。

PBLは、プロジェクト実行のためのフレームワークの設定や実施計画立案、プロジェクト実行を学生が自ら行うことが特徴です。この過程で、学生は他の講義・実験科目の重要性を認識し、課題解決という目標に向かって意欲的に取り組むことにより、学習動機を強くすると同時に、通常の講義・実験科目では得られない実践的な力（問題解決能力、プレゼンテーション能力、論理的思考力等）を身に付けることができます。

クォーター制は、留学やボランティア活動といった学生の自主的な学習体験の促進や、授業を短期間で集中的に受講することによる教育効果の向上等を目的とするもので、本学科が実施しているKSAプロジェクトなどの留学が行いやすいようになるのが特徴です。

4. 社会基盤メンテナンスエキスパート養成講座

防災情報研究センターと環境建設工学科が主体となって、社会基盤メンテナンス

環境建設工学コア科目	
<レジリエント社会基盤デザイン科目群> (6単位)	
－ 防災・減災工学	
－ 社会基盤デザイン原理	
－ 実践アセットマネジメント	
<サステナブル環境デザイン科目群> (6単位)	
－ グローバル環境物理学	
－ 新エネルギーと都市デザイン	
－ 生物多様性と人間活動	
<サステナブル都市地域マネジメント科目群> (8単位)	
－ 行動科学論	
－ システム工学論	
－ 地域マネジメント論	
－ サステナブル地域マネジメント論	
<コモン科目群> (10単位)	
－ 公共ガバナンス論	
－ 流体力学シミュレーション	
－ 固体数値シミュレーション	
－ 最新トピックス	
－ 海外留学・インターンシップ	
発展・総合科目 (必修12単位)	
◎環境建設工学ゼミナール	
◎環境建設工学特別実験	
◎技術英語プレゼンテーション	

図-1 大学院カリキュラム
(平成24年度入学者)

エキスパート養成講座として実施されました。この養成講座は、あらたな社会基盤の整備、既存社会基盤の維持管理・補修の計画・設計・実施技術を習得し、地域の活性化に貢献できる人材としての社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）を育成することを目的としています。講師陣は、愛媛大学工学部環境建設工学科教員ならびに防災情報研究センター教員に加え、国・県・市・民間等から学外専門家から構成されています。写真－１は、平成25年度に実施した試行講座の様子です。最初の１日目はアセットマネジメント概論に関する講義を受講し、３日目は構造物の点検に関するフィールドワークを行いました。平成26年度は10月～11月の10日間、アセットマネジメント・リスクマネジメント、橋梁の維持管理、地盤構造物の維持管理、舗装、トンネル、河川構造物、上下水道の維持管理、南海トラフ大地震と豪雨災害を想定した防災対策といった内容で実施されました。

最後になりましたが、本学科スタッフ一同、土木海洋会の会員の皆様と、様々な交流を通じて、親睦を深めていきたいと思います。

本学科の最新の活動状況を、(<http://www.cce.ehime-u.ac.jp/>)にも掲載されておりますので、是非ご覧頂ければと思います。



写真－１ 講義と点検や損傷判定の説明の様子

新任教員の挨拶



着任のご挨拶

環境建設工学科

教授 松村 暢彦

皆様、初めまして、平成26年４月に地域デザイン研究室の教授に着任しました松村暢彦と申します。松山に来てからはや半年、楽しくも充実した時間を過ごさせていただいています。専門分野は、

都市計画、土木計画で、市民と協働したまちづくりの研究、教育を実践的に行って参りました。

研究室名になっている「地域デザイン」というと、一見、自分の想いのまま、勝手気ままに街、地域のかたちを変えていくイメージをもたれる方がいらっしゃるかもしれませんが、地域では、いろいろな人たちが日々、幸せを願って暮らしを紡いできましたし、これからも続いていきます。その営みに対して敬意を払いながら、より豊かな（物質的な意味だけではなく）社会、地域のすがたを一緒に考え、実現していく取り組みが地域をデザインするということだと思っています。したがって、専門家として関わっていくときに、その地域の人々とコミュニケーションをとりながら、一緒にまじめに、楽しく地域のすがたを考えていく必要がありますし、場合によっては自分の小さな専門分野を超えていく心構えも必要です。それとあわせてそのような地域をつくっていく人も育てつつ、地域のことを考えて暮らしを少し変えてみようと思う人を増やしていく必要があります。

そうした問題意識から、政策のデザインと関係性のデザインという二つの観点から実践的な研究を行っています。専門分野は工学系の計画ですが、社会心理学の知見を活かしコミュニケーションを通じた交通政策であるモビリティ・マネジメントの実践と評価や社会科教育の観点から地域の社会問題を取り扱った教材の開発・評価など、多様な観点から地域の問題にアプローチする政策デザインを研究してきました。また、地域デザインを実践していくためには、多様な主体が関係し合いながら、地域で実践していくアプローチがますます増えていきます。立場が異なる主体が協力しながら活動していくためには、各主体のパーソナル・ネットワークに着目して、役割分担を定量的に分析し、知見を蓄積していくことが期待されています。そこで、社会的ネットワーク分析を用いて、地域活動を通じて人と人とのつながりが形成されていくプロセスを分析したり、地域の記憶を掘り起こし地域の人々と共有していくことで地域と人、人と人の関係性が再構築されていく研究など、関係性のデザインを対象にしています。

ここ松山はＪＲ周辺の土地区画整理事業など大きく空間が変わろうとしていますし、環境モデル都市に選定されるなど環境にも配慮したまちづくり、ライフスタイルを定着していこうとしています。また、県内には、道後温泉や内子などの重伝建地区、しまなみ海道に美しい島々など観光資源にも恵まれ、これからさらに多くの交流人口も期待されています。こうしたまちが大きく変わろうとしている節目の時期に松山に来ることができたのは、私にとりまして大変な喜びです。皆様とのご縁を大切にしながら、よき社会づくりのお手伝いを通じて、研究、教育活動に精進していきたいと思います。若輩者ではございますが、どうぞ、よろしくお願いいたします。



着任のご挨拶

環境建設工学科

教授 日向 博文

皆様、はじめまして。平成26年4月に環境建設工学科に着任いたしました日向博文と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。私は、平成3年に東京工業大学大学院土木工学専攻を修了し、(株)熊谷組に就職しました。4年半の熊谷組時代には来島大橋の現場を含むいくつかの現場と筑波にあった技術研究所で様々な経験をいたしました。その後、東京工業大学土木工学科に助手として4年半在籍し、平成12年1月に学位を取得した後、同年4月から神奈川県横須賀市の国土交通省国土技術政策総合研究所に主任研究官として8年、室長として7年間在籍しておりました。それぞれ短い期間ではありますが、産官学のすべての職場を経験しました。大学勤務は15年ぶりですが、日々戸惑いながらも楽しみながら過ごしています。また、愛媛県を全力で楽しみたいと考えています。なかでもしまなみ海道サイクリングの楽しさと瀬戸内の魚のおいしさには完全に魅了されてしまいました。今後も新たな楽しみを見つけていきたいと考えています。

現在私は海洋レーダを用いた津波減災技術の開発と海洋プラスチックによる海洋汚染に関する研究を進めています。今回はレーダを使った津波計測に関する研究について簡単に紹介します。伝搬してくる津波を震源域(100km程度沖合)から港(数kmの沖合)まで、しかも陸上から計測する事など出来るのでしょうか？我々の研究グループ(愛大・関大・琉大・国交省・NICT・国際航業・長野日本無線)は可能だと考えています。海底水圧計を沢山設置するわけではありません。我々はレーダ技術を利用した計測に挑戦しています。レーダは陸上に設置するため海底水圧計網に比べて初期・維持コストを大きく抑えられるだけでなく、震源域―陸棚域―港湾域をシームレスに観測することがきるといふ特徴を有しています。方法はシンプルで陸上に設置した送信アンテナから短波帯の電波を海面に向け照射し、受信アンテナで海面からの散乱波を受信します。この受信波の周波数を解析することで津波に起因した“流速”変動を“面的”に“数分間隔”で計測します。流速から水位への換算は線形長波の仮定が成立する海域では容易です。我々のレーダは沖合30kmくらいまでであれば東北地方太平洋沖地震で発生した津波を計測することに成功しています。現在2台のレーダを和歌山県美浜町と白浜町に設置し観測を続けながらより遠くまで計測できる遠距離レーダの開発、受信信号からより正確に津波情報を抽出するアルゴリズムの開発、また計測距離のバックグラウンドノイズ依存性などを調べています。レーダ技術を使った津波減災に関する研究は世界でも始まったば

かりです。研究を行っているのは我々も含めて日・米・独の3グループのみです。
今後とも応援よろしくお願いいたします。

支部だより

関東支部だより

関東支部幹事長 黒坂 佳司（海洋57年卒）

毎週末のように襲来していた台風の季節も終わり、漸く秋の爽やかな日々が続く
今日この頃ですが、会員の皆様にはお元気で過ごしてはいかがでしょうか。

関東支部では、「会員各位間の親睦を深め、新たな発見のために少しでもお役に
立ちたい」との、関東支部発足時からの使命感の下、平成25年度も以下の活動を中心
として関東地区在住会員間の親睦を図ってまいりました。

1) 平成25年7月27日(土)：関東支部総会

場 所：キャンパスイノベーションセンター（田町）

参加人数：支部会員18名



平成25年度関東支部総会は、7月27日
(土)に愛媛大学サテライトオフィスのご協
力／ご支援のもと、田町のキャンパスイ
ノベーションセンター（C I C）3階に
おいて、会員18名、来賓2名の参加のも
と開催しました。H24年度事業内容、H
24年度決算、役員の改選、H25年度事業
計画、H25年度予算案について報告し、
ご承認頂きました。総会後は大学から全
先生にご来京賜り、“橋梁・道路の維持
管理の現状と課題への取り組み”と言う
テーマでご講演頂きました。

講演後は、会場近くの「竹取の庭～遊
庵 田町ビータ店」にて懇親会を開催し、



会員相互の交友を深めました。

2) 平成25年10月19日(土)：第9回秋のレクリエーション

場 所：小金井公園（東京都）

参加人数：15名



今回で9回目を迎える秋のレクリエーションは、中央線武蔵小金井駅（東小金井駅）近くの東京都小金井公園にてバーベキュー大会を行いました。

小金井公園は面積約80ヘクタール（日比谷公園の4.9倍、上野公園の1.5倍）の広大な公園で各種施設も充実しており、春の園内ではヤマザクラ、ソメイヨシノ、サトザクラなど約1700本の桜も観賞できます。また広大なユウカリ広場では“手ぶらでバーベキュー”を手軽に楽しめ、多くのファンで土日はいつも盛況です。

爽快な秋晴れのなか、美味しいお肉と野菜に魚介類、おにぎりに焼きそばを肴に、皆で手分けして運んだタップリのビール、遠路山梨から副支部長持参（差し入れ）の甲州ワインで、気持ちの良い一日を十分にエンジョイし、リフレッシュ



できました。

3) 平成25年11月9日(土)：第26回 クラブOH！海土 懇親ゴルフ大会

場 所：紫カントリークラブ 紫あやめ（千葉県）

参加人数：8名



第26回クラブOH！海土 懇親ゴルフ大会は、絶好のゴルフ日和の中、千葉県の紫カントリークラブ・紫あやめコースにて会員8名の参加で開催され、大仲祥司さん（土木47）が優勝されました。

4) 平成26年1月25日(土)：関東支部 平成26年 新年会

場 所：キャンパスイノベーションセンター（田町）3階ラウンジ

参加人数：支部会員41名



平成26年新年会は、愛媛大学サテライトオフィスのご協力のもと、田町のキャンパスイノベーションセンター3階ラウンジにて開催されました。

土岐支部長の年頭挨拶の後、来賓の河野土木海洋会会長のご挨拶を賜りました。その後、土木海洋会本部の格別のご配慮により、愛媛大学工学部 環境建設工学科 事務室から、学科のお母さん役であります事務補佐員の見世静子様にご来京賜り、学科の移り変わり、先生方の近況、学生の就職状況等について鈴木先生、木下先生とご一緒に楽しくお話をさせて頂きました。



見世様のご人徳により若い方々に多く参加して頂き、参加人数が近年最高の41名となりました。

5) 平成26年4月12日(土)：第27回 クラブOH！海土 懇親ゴルフ大会

場 所：春日居ゴルフ倶楽部（山梨県）

参加人数：6名



第27回クラブOH！海土 懇親ゴルフ大会は、久しぶりの山梨県・春日居ゴルフ倶楽部にて会員6名の参加で開催されました。

桃の花の絨毯の向うに富士山が見える絶景の中、支部長の土岐睦弘さん（土木50）が優勝されました。

上記の他、支部長、副支部長、監事、幹事の皆さんは多忙な中で日程を調整し年間5回の幹事会を開催し、各イベントの詳細計画等を協議し関東支部活動の力の源泉となりました。

関東支部では、毎年、決算／予算案審議に加えて愛媛からご来京頂いた先生に講演頂く支部総会を始めとして、多彩な方面で活躍されているOB／OGの方にご講演をお願いしている新年会、春・秋2回開催の懇親ゴルフ大会、さらには、幅広い年齢層の方々と一緒に楽しめるように企画している秋のレクリエーションを活動の4つの柱としています。

関係者一同、今後も少しでも会を盛り上げていきたいと頑張っておりますので、お近くの方はぜひお気軽に参加して頂ければと考えております。また、就職・転勤などで関東地区に転入された方は、是非ご一報下さい。

近畿支部だより

～愛媛大学環境建設系学生のための企業説明会開催～

近畿支部事務局 清水 義博（土木S52年卒）

近畿支部では、他支部のみなさん同様、例年、総会・新年会・見学会・ゴルフコンペなどを開催していますが、今年（平成26年）は、新年会を愛媛大学環境建設系学生のための企業説明会 兼 現役学生と卒業生を交えた懇親会（交流会）と言う形で、開催しましたので、その概要をご報告します。

平成26年 2月15日(土) 於：大阪キャッスルホテル

第1部： 愛媛大学環境建設工学系学生のための企業説明会

14：00～ 主催者挨拶 および 企業説明会の進め方の説明

14：05～14：40 各社による企業紹介／業務内容に関するプレゼンテーション
(1社3分)

- ・東洋建設株式会社
- ・株式会社森組
- ・西松建設株式会社
- ・前田建設工業株式会社
- ・JFEエンジニアリング株式会社
- ・株式会社アスコ
- ・パシフィックコンサルタンツ株式会社
- ・株式会社オリエンタルコンサルタンツ
- ・株式会社地域未来研究所
- ・東海旅客鉄道株式会社（JR東海）
- ・西日本高速道路株式会社

14：40～17：40 各社のブースにて企業紹介、学生グループ面談



各社1回当たり25分(休憩・移動5分)で、6回学生をローテーション
17:40～ 閉会挨拶

第2部： 愛媛大学土木海洋会近畿支部 新年会 兼 企業・学生・卒業生交流会

18:00～20:00 近畿支部新年会 兼 交流会

交流会参加者(括弧内は卒業年次)

学生 [43名]

修士1年 [21名]、学部4年 [22名]

愛媛大学教職員 [5名]

吉井稔雄教授(学科長)、氏家勲教授(就職担当)、

木下尚樹助教(S63)、全邦釘助教、見世静子職員

土木海洋会メンバー [47名]

河野徹(会長 S42)

大橋健一(近畿支部支部長 S47)

室達朗先生

伴光正(S34)、上阪欣司(S45)、吉牟田豊(S45)、鈴木忠彰(S47)、

山野邊憲正(S47)、荒柴敏夫(S48)、坂田政彦(S52)、清水義博(S52)、

山本英樹(S53)、林健治(S53)、西村正三(S53)、大畠晃(S54)、

大津正司(S54)、矢野寛(S55)、西村芳夫(S55)、泉市耕二(S56)、

牧野吉博(S56)、宮地克好(S56)、森田靖(S56)、藤原隆一(S56)、

神田正人(S58)、上前慎治(S60)、三瀬博敬(S63)、内山浩二(S63)、

真鍋毅(H元)、久保光明(H2)、田中雅宣(H3)、白川英志(H5)、

関正造(H5)、右近雄大(H7)、大伴裕彰(H9)、丹生義明(H10)、

石井隆明(H12)、川崎洋輔(H15)、齋藤多恵子(H15)、榎本祐介(H17)、

木村健輔(H18)、牛尾龍太郎(H19)、重永三郎(H20)、高本龍直(H22)、

濱本憲一郎(H22)、熊崎壮洋(H23)、藤本一平(H23)、渡部桂子(H23)

企業人事担当者 [5名]



企業説明会では土木建設関連企業11社による各企業の紹介が和やかな雰囲気の中で行われました。

引き続き開催された交流会では、職場で活躍する卒業生の現況や大先輩の人生訓に現役学生のみなさんが耳を傾けるといった場面が見られるなど、おおいに盛り上がり、環境建設工学科の卒業生／現役学生による縦のつながり、絆が深まったのではないかと思います。

思い返してみますと、昨年秋、昨年度のコース長で、支部総会にも参加を賜った吉井先生から、近畿支部による企業説明会の開催と、その後、現役学生と卒業生を

交えた懇親会を開催することが出来ないかと言うご提案がありました。私自身、自社の採用担当者として、他大学の同窓会が主催する企業説明会に参加したことがありましたから、提案にはもちろん賛同でした。

また、そのパイオニアとして、近畿支部にお声掛け頂いたのは光栄でしたが、土木海洋会では、前例の無いことなので、参加企業数は何社になる？学生・卒業生で参加者は何名になる？参加してもらい易い予算として、企業・学生・卒業生の負担はいくらにする？その人数・予算でできる会場があるか？など、潰して行かなければならない問題点は山積でしたが、本部の吉井先生、木下先生のご助力を頂き、何とか解決し、無事に開催することができました。

なお、今回の参加者で民間企業への就職希望者23名の内、8名のみなさんが、説明会参加企業（5社）に内定されたと伺っており、参加した学生のみなさん、企業のみなさんにも成果があったものと安堵しております。

来年度につきましても、平成27年2月28日(土)に、開催を予定しております。前回以上の成果を上げれるよう準備を進めてまいりたいと思いますので、近畿支部役員の皆様、本部の関係者の皆様には、また、ご助力の程、お願い申し上げます。

最後になりますが、開催に当たりまして、吉井先生、氏家先生、木下先生、全先生、見世さん、学生の皆さんに熱心に説明して頂いた参加企業のみなさん、本当にお力添えありがとうございました。

この紙面をお借りして心から御礼申し上げます。



中国支部だより

中国支部長 河野 徹（土木S42年卒）

中国支部といっても、時間的に広い領域で広島支部と言ってもよさそうである。実際に会に集まるのは広島市内在住の会員であるが、その数も年々減少してきている。魅力ある支部にしてみたいと考えている。

広島は日本の標準的な地域で、商品の試験販売し、その商品が売れるかどうか判断調査するには広島と静岡と聞いています。日本の平均的なところと言うことでしょうか。元広島カープの監督が『広島にないものは地下鉄とマナーだけ』と言っているように何でもあるのが広島です。

マナーとは人への思いやりと解釈すれば、自分の事しか考えない人が多いと言う事になります。日本の風景として棚田の美しさを欧米でも日本で評価されている。日本のように70%が山地であると、水稻栽培にはどうしても協力関係が重要であり、仲違して上流の人が水を下流に流さなければ文字通り干上がってしまいます。この協力関係の成果が棚田の美しさに隠されているのではとふと考えます。

明治15年にドイツ人の農学者マックス・フェスカは日本国内の農耕地を調査したが、一人当たりの耕作面積は当時の三重県について狭いのが広島県であった。棚田耕作の協力関係が希薄な地域風土であるのか？宗教の問題もあるというが、耕作面積は狭く、子沢山の対応として広島からは日本国内はもとより海外まで移住している。その地に住んで広島県人会等の立派な協力関係組織があり、お世話になった事も多々ある。

似たような話であるが、温暖な機構で水が豊富、風水害の少ないいわゆる恵まれた地域は住んでいる住民の協力関係希薄である。そのような地域でこそ協力関係を十分にすれば立派な県民になれると言う話を県の出身者で超大企業の会長から聞いた事がある。

ミクロネシアを訪ねた時に木の下で、1日中死んだようにしている人を見かけたので、あの人は死んでいるのではと聞いてみた。曰く『あれは寝ているのだ、この国はパイナップル、バナナ、マンゴの3本の木があればそれら何もしなくても、年中それらの木が実をつけるので、それを食べておれば何もしなくて良い。だからこの国は発展しないのだ。日本のように自然災害等が多くあると、それに対処するために発展するのだ』と大胆な解釈を聞かされた事がある。その国の大統領に会ってみても、“日本からの援助少ない”と不服を言われた。全く国中が勞せずして樂をしたい国かと思った。

小生も高齢化して社会にお世話になると思う。自分が社会に対して何も社会貢献せずに、お世話だけになるのは身勝手すぎると考えます。自分たちだけの同窓会で

はなく、諸先輩、後輩のためにも同窓会を維持発展したいと考えています。その中でしばらく休んでいた支部総会・新年会を再開したいと考えています。

愛媛大学土木海洋会 愛媛支部 活動報告

支 部 長 高橋 正雄（海洋S55年卒）

副支部長 黒川 重男（土木S55年卒）

幹 事 長 栗原 弘和（土木H2年卒）

愛媛大学土木海洋会会員の皆様におかれましては、ご活躍のことと存じ上げます。また、日頃より土木海洋会愛媛支部の活動にご理解、ご協力を頂きまして誠にありがとうございます。

平成26年度も平成25年度に引き続き、高橋支部長、黒川副支部長のもと支部活動を行って参ります。

土木海洋会だよりの紙面をお借りして、平成25年度の活動報告を致します。

【平成25年度事業報告】

平成25年度は、役員会をはじめとして、ゴルフコンペを1回と忘年会を開催し、多数の出席を頂きました。詳細は下記に示します。また、ゴルフコンペと忘年会につきましては後ほど詳しくご説明します。

1. 役員会開催（平成25年7月13日）出席者15名
議題：支部総会用資料の審議
2. 支部総会（平成25年8月24日）出席者11名
会場：愛媛大学 校友会館
3. 本部総会（平成25年8月24日）
会場：愛媛大学 校友会館
4. 愛媛支部 ゴルフコンペ（平成25年11月30日）参加者10名
会場：サンセットヒルズカントリークラブ
6. 忘年会（平成25年11月30日）出席者34名
会場：伊予鉄会館 2階 中華料理「北京」

【平成25年度会計報告】

平成26年3月31日時点での会計報告を下記に示します。

収 入	支 出
前年度繰越金 562,351円	役員会開催費 27,000円
忘年会補助金残額返還 2,000円	忘年会案内通信費 5,500円
利 息 86円	忘年会補助費 70,000円
	ゴルフコンペ補助費（11月） 30,000円
	次年度繰越金 431,937円
収入合計 564,437円	支出合計 564,437円

【平成26年度予算報告】

平成26年度の予算報告を下記に示します。

収 入	支 出
前年度繰越金 431,937円	役員会開催費 15,000円
本部からの補助金 100,000円	印刷通信費（葉書、写真プリント等） 10,000円
利 息 63円	支部主催ゴルフコンペ補助 2,000円@10名@2回 40,000円
	忘年会補助等 2,000円@35名 70,000円
	同窓会補助 2,000円@10名 20,000円
	予備費 377,000円
収入合計 532,000円	支出合計 532,000円

【平成26年度事業計画】

平成26年度の事業計画につきましては、この土木海洋会だよりをご覧になるころには、支部総会、本部総会、第1回支部主催ゴルフコンペと忘年会は実施済みとなっていることと思います。

第2回ゴルフコンペなど、今後も行事を考えておりますので、多数の方の参加を

心よりお待ちしております。

支部総会（H26. 8.23）愛媛大学 校友会館
本部総会（H26. 8.23）愛媛大学 校友会館
愛媛支部 第1回ゴルフコンペ（H26.11.29）
忘 年 会（H26.11.29）伊予鉄会館
愛媛支部 第2回ゴルフコンペ（H27. 2～3）
そ の 他 同窓会補助など

【平成26年度役員紹介】

平成26年8月23日の支部総会より次年度の総会までの間、次に示します役員により、愛媛支部の運営を行ってまいりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

支 部 長	高橋 正雄（海洋 S55年）	三井住友建設(株)
副支部長	黒川 重男（土木 S55年）	愛媛県
幹 事 長	栗原 弘和（土木 H2年）	(株)四電技術コンサルタント
幹 事	大賀水田生（土木 S49年）	愛媛大学
	勝谷 雄三（土木 S49年）	
	山田 康晴（土木 S53年）	愛媛県
	飯田 和樹（海洋 S54年）	四国小松フォークリフト(株)
	中尾 均（土木 S54年）	伊予鉄道(株)
	玉井 良二（土木 S54年）	松山市
	福岡 修一（土木 S55年）	ショーボンド建設(株)
	村上 浩司（海洋 S55年）	芙蓉コンサルタント(株)
	加藤 幸彦（土木 S55年）	(株)四電技術コンサルタント
	永井 康生（土木 S56年）	愛媛県
	白石 研司（土木 S58年）	日本エレクトロニックシステムズ(株)
	大倉 修（土木 S62年）	愛媛県
	渡邊 政富（土木 H2年）	渡邊建設(株)
	山本 修嗣（海洋 H2年）	五洋建設(株)
	谷口 貞広（土海 H7年）	松山市
	明日 孝憲（土海 H9年）	愛媛県
	白石 誠（土海 H11年）	松山市
	木村 将伸（環建 H12年）	松山市
監 事	友近 榮治（土木 S48年）	南海測量設計(株)

なお、支部の運営やご意見などがございましたら、遠慮なく幹事長にご一報いただきたいと考えております。いただきました意見等を参考に、支部の運営をよりよ

いものにしていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

【平成25年度のおもな行事の紹介】

★愛媛支部主催 ゴルフコンペ★



平成25年11月30日(土)にサンセットヒルズカントリークラブで開催されたゴルフコンペの集合写真です。

総勢10名で競われた結果は、優勝は氏家勲さん、準優勝は山内武志さん（土木63）でした。

★平成25年度 忘年会★

平成25年11月30日(土)に伊予鉄会館「中国料理 北京」において、総勢34名の参加により行われました。

産官学の方々が気兼ねなく集える場所ですので、有意義な時間が過ごせることは間違いありません。今後の忘年会には是非とも参加のほどよろしくお願いします。（あまり固苦しく考えなくてもいいと思います。）

今後は、愛媛大学土木海洋会のホームページに活動報告を積極的に掲載し、同窓会の皆様に少しでも関心を持って頂けるようがんばってまいります。!!

愛媛大学土木海洋会

検索

以上、愛媛支部の活動報告を終わります。



愛媛大学渡邊政広教授退官記念祝賀会（水工学研究室近畿地区同窓会）報告

清水 義博（土木S52年卒）

山本 英樹（土木S53年卒）

平成26年3月末にて、渡邊政広 名誉教授が、めでたく定年退官されたことを受け、近畿在住の水工学研究室卒業生の有志により、ささやかではありますが、水工学研究室同窓会を兼ねた退官記念祝賀会を神戸で開催しました。

本会の開催にあたって、水工学研究室の出身者で、近畿地方に在住の57名の卒業生に声がけさせていただいたところ、翌日の台風19号の接近にもかかわらず、土木工学科、土木海洋工学科及び環境建設工学科卒業の12名が集い、限られた時間ではありましたが、盛大に会を催すことができました。

渡邊先生は、昭和46年愛媛大学工学部土木学科を卒業された後、豊國先生のもと水工学研究室の助手として就任されて以来、43年の長き期間にわたり、教壇と研究に没頭され、愛媛大学に多大な貢献と功績を残されてこられました。

その間、大学では、先生の熱心な講義と粘り強い研究は好評があり、教鞭を離れても、その優しい人柄から、気さくに学生に接していただき、将来の進路にも親身になって相談にのっていただくなど、卒業生からは、身近な恩師として、今なお、広く慕われておられています。



当日は、参加者全員で先生の退官を心からお祝いし、これまでのご指導に感謝すると同時に、先生との久々の再会を懐かしみ、学生生活など当時の思い出話に花を咲かせながら、懇親を深めることができたものと感じています。

また、渡邊先生の恩師であり、常日頃から、愛媛大学土木海洋会近畿支部をはじめ、大学の卒業生を温かく見守っていただいている豊國永次 名誉教授にもお越し頂きました。御年85歳になられましたが、いつまでも若々しく、お元気で凛とされており、我々にとって、憧れであり、誇りに感じる豊國先生との再会は感慨深いものでありました。

本会に参加した卒業生全員が、渡邊先生と豊國先生との再会を喜び、これまでのご指導への感謝と今後ますますのご健勝にてのご活躍を願うとともに、次回の再会に大きな期待を寄せつつ、別れを惜しみながら、散会していきました。

退官記念祝賀会開催日時 平成26年10月12日(日)12：30～15：30
開催場所 神戸市中央区北野町1-1-14 ホテル北野プラザ六甲荘

平成26年度 第3回森研究室同窓会

日時：平成26年8月16日(土)

場所：松山市

参加者：12名（森先生、武内（環建H11）、阿部（環建H12）、掛水（環建H14）、大竹（環建H22）、古川（環建H22）、松村（環建H22）、松浦（環建H23）、ラトナ（現役）、中野（環建H24）、三澤（現役）、森（現役））

森研究室は今年で17年目となります。約2年前（森研究室15年目）、第2回森研究室同窓会を開催し、今回で3回目になります。

開催の目的は、世代を超えた交流です。現役学生については、社会人となった同窓生と対話することで就職後の生活、勤務状況、職務内容等がわかる良い機会となります。また社会人はゼネコン、コンサル、公務員など多岐にわたり、お互いの職務内容を話すことで違った視点を得ます。結果、全員が刺激的な時間を過ごすことになりました。今後も2年に一度、同窓会の開催を予定しています。

第2回目に比べて参加者は減りましたが、（第2回は14名）欠席者からも「今回

参加できなくて本当に残念です」などの意見を頂いており、今後も継続したいと考えております。

さて、今回実施した同窓会は松山市三番町です。各人、松山在住時代に一度は飲みに出かけた場所です。

飲み足りない人、食べ足りない人、話足りない人、さまざまでありましたので2次会にも参加しました。(森先生も含め)学生の時には出来なかった話も気兼ねなく出来、有意義な時間を過ごしました。また、当初目的である世代を超えた交流が出来てとても意味のある同窓会でした。

同窓生参加者は、ゼネコン、コンサル、等様々な業種、地域、職場で活躍しており、参加者も多岐に渡りましたので、特に就職を控えた学生には良い情報収集の場となったのではないのでしょうか。



平成26年度 愛媛大学土木海洋会 総 会 議 事 録

開催日時：平成26年 8 月23日(土) 午後 3 時～

開催場所：愛媛大学校友会館

出席者数：20名

議 題

議 長： 門田 章宏 幹事長

1) 平成25年度事業報告

門田幹事長より、総会資料－ 1 に基づき、平成25年度中に実施された諸事業について説明がなされ、これらが全会一致で承認された。

2) 平成25年度決算報告

木下幹事より、総会資料－ 2 に基づき、平成25年度の決算報告がなされるとともに、この会計について大門監事より適正であることを認める旨の会計監査結果報告がなされ、これらが全会一致で承認された。

3) 平成26年度役員について

門田幹事長より、総会資料－ 3 に基づき、平成26年度役員（案）について説明がなされ、本案が全会一致で承認された。

平成26年度の新役員は、以下のとおり。

○副会長：森脇 亮（教授）、新宮 勝哉（土42年）、玉井 良二（土54年）

○評議員：柏木 亮太（25年）、伊藤 文（25年）

4) 平成26年度事業計画について

門田幹事長より、総会資料－ 4 に基づき、平成26年度事業計画（案）について説明がなされ、本案が全会一致で承認された。

なお、同窓会活性化、会費徴収のための提案として、近年の卒業生の土木海洋会の認知度が低いことから土木海洋会の名称を変更すること、就職企業説明会を近畿支部に加えて関東支部も愛媛大学で開催すること、入学時の会費徴収、工業会、校友会の予算の活用といった意見が出された。また、長年支部の活動に貢献してきた会員に功労賞を授与する案も出された。これらの提案について、本部で

検討し、その内容を各支部の役員からの意見を聞くことで、進めていくこととなった。

5) 平成26年度予算について

木下幹事より、総会資料－5に基づき、平成26年度予算（案）について説明がなされ全会一致で承認された。

6) その他

なし

愛媛大学土木海洋会 会計報告

平成25年度 決算報告書
(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

収 入 (円)		支 出 (円)		
前年度予備費	1,324,128		(予 算)	(決 算)
年会費	2,669,000	印刷費	950,000	1,088,051
		郵便・通信費	600,000	700,137
		旅費	550,000	624,000
広告掲載料 (27社)	580,000	(教員派遣、総会出席)		
		支部援助金	400,000	400,000
		援助金	100,000	51,000
利息	147	(学内、同窓会、同期会)		
		会議費	10,000	5,528
寄付金・その他	180,000	謝金	700,000	750,400
		雑費(手数料)	150,000	188,149
		事務費	50,000	46,552
		(PC消耗品、文具)		
		小 計	3,510,000	3,853,817
		次年度繰越金		899,458
合 計	4,753,275	合 計		4,753,275

上記について会計監査の結果正に相違ありません

平成26年8月6日

監 査 松木 三郎 印
監 査 大門 和敬 印

資料－５

愛媛大学土木海洋会平成25年度予算（案）
（平成25年４月１日～平成26年３月31日）

収 入（円）		支 出（円）		
項 目	金 額	項 目		金 額
前年度予備費	1,324,128		(25年度決算)	(予 算)
平成25年度会費 (1000口)	3,000,000	印刷費	907,473	950,000
広告掲載料 (25社)	500,000	郵便・通信費	585,780	600,000
寄付金	200,000	旅費 (教員派遣、総会出席)	510,160	550,000
利息	150	支部援助金	400,000	400,000
その他	0	援助金 (学内、同窓会、同期会)	64,000	100,000
		会議費	2,300	10,000
		謝金	653,500	700,000
		雑費 (文具、手数料)	253,241	200,000
		小 計	3,376,454	3,510,000
		次年度繰越金		1,514,278
合 計	5,024,278	合 計		5,024,278

事務局だより

1. 会費についての内規

平成12年より70歳以上の会員の会費は免除することにしております。また60歳以上の会員は終身会費として会費を一括払いすることができるようになっておりますのでご活用ください。なお会員の方々の年齢は卒業年次により計算させていただいておりますことをご了承ください。

会費についての内規

1. 会費は、年額3,000円とする。ただし、70歳以上の会員の会費は免除する。
2. 60歳以上の会員は、終身会費として一括払いをすることができる。終身会費は、60歳以上65歳未満の会員に対しては、20,000円、65歳以上の会員に対しては、10,000円とする。
3. この内規の変更は、総会の議決による。

2. 会合への助成金制度

この制度は、同窓生の皆様に、同窓会活動を活発化していただくために設けられたものです。同窓生の親睦などの目的に活用していただきたいと思います。下記の細則2の提出物を添えてお申し込みください。事前のご相談もお受けいたします。

〈同期会・研究室同窓会・職場班会・地区同窓会などに対する助成金制度〉

助成金額：出席者会員1名当たり1,000円を上限とする。ただし、会員5名以上の会合で、助成最高額は50,000円とする。

上記助成金制度の細則

細則1. 助成対象

出席者の全員または一部が会員である会合に対し助成する。

細則2. 本部事務局への提出物

1. 案内状1部（土木海洋会への会費納入催促の文をなるべく記載のこと）

2. 最終出席者名簿 1 部（氏名、卒業学科・年、その他（勤務先、住所など）
3. 集合写真 1 枚（日付入り）
4. 住所変更の報告
5. 土木海洋会だよりへの投稿原稿

細則 3. 助成回数

同一組織による会合への助成は、年度内において 1 回とする。

上記の助成は、平成 9 年度より実施する。

3. ホームページについて

土木海洋会のホームページを開設しました。行事等の情報を掲載いたしますのでぜひご覧ください。支部行事、会合の案内等のホームページへの掲載を希望される場合は事務局までご連絡ください。

土木海洋会ホームページアドレス <http://www.cce.ehime-u.ac.jp/~dokai/>

4. 土木海洋会だよりへの投稿のお願い

毎年12月に発行しております「土木海洋会だより」への掲載記事を募集しております。

個人・グループの近況、活動報告、技術記事などを寄稿ください。掲載ご希望の方は事務局までご連絡ください。

愛媛大学土木海洋会だより 第20号

発 行 日 平成26年11月●日

発 行 者 愛媛大学土木海洋会

〒790-8577 松山市文京町3番

愛媛大学工学部環境建設工学科内

☎ 089-927-9823

F A X 089-927-9823

E メール dokai@cee.ehime-u.ac.jp

郵便振替 加入者名：愛媛大学土木海洋会

口座番号：01640-6-37779

銀行口座 加入者名：愛媛大学土木海洋会

伊予銀行城北支店（支店番号150）

普通口座 150-1-1231698

ゆうちょ銀行一六九（イチロクキュウ）店

当座 0037779

土木海洋会

検 索

土木海洋会ホームページ

<http://www.cee.ehime-u.ac.jp/~dokai/>

メールアドレス

dokai@cee.ehime-u.ac.jp

愛媛大学工学部環境建設工学科ホームページ

<http://www.cee.ehime-u.ac.jp>